

# 〈セミナーのご案内〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 153 (通算 440 回) 2009 年 10 月 14 日 (水)

“小なれば”こそ“敏に輝く”

※ 開催延期 ※

## コンパクト・カレッジの教学経営の展開

～ 適正スリム化／構想力とリーダーシップ／地域共創 ～

- ※ 大学の収入規模別戦略／売上高と利益率／規模型事業と分散型事業／これからの中規模大学への示唆
- ※ [常磐大] 徹底的な地域密着経営／8 割の学生が地元出身・地元就職／知の協創拠点
- ※ [札幌国際大] 適正スリム化経営の問題点／中小規模大学・短大への政策的配慮
- ※ [九州ルーテル学院大] 二度の危機への対応と再建計画／地域密着／スピード／弱さを強さに

### ● 講師陣 ●

山田 英夫 氏 / 早稲田大学ビジネススクール (大学院商学研究科) 教授  
 高木 勇夫 氏 / 常磐大学 学長  
 和野内 崇弘 氏 / 札幌国際大学 理事長  
 清重 尚弘 氏 / 九州ルーテル学院大学 学長

2009 年 10 月 14 日 (水) 剛堂会館ビル 会議室 (東京・麹町)

地域科学研究会  
高等教育情報センター

日時: 2009 年 10 月 14 日 (水) 9:40~16:50  
 会場: 剛堂会館ビル(明治薬科大学)会議室(東京・麹町)  
 千代田区紀尾井町 3-27 03-3234-7362

アクセス: 東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口より  
 徒歩 4 分、JR 中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口  
 から徒歩 10 分  
 ※会場の地図及び受講証を送付しますので  
 必ずご確認ください。

参加費: A. ご一名(資料代込) 42,000 円(消費税込)  
 B. メディア参加(資料・音声 CD 送付) 43,000 円(送料、消費税込)

※参加費の払い戻しは致しませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

☆ FD・SD 及び BD 研修の本格化に伴い、2007 年から受講・修了証明書を発行しております。

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

申込方法: 参加申込書に所要事項を記入のうえ  
 FAX または E-mail にてご送付ください。  
 支払方法: 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。  
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880  
 三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767  
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658  
 郵便振替 00110-8-81660  
 全ての口座名<(株)地域科学研究会>  
 ※ご請求なき場合は振込受領書を領収書に  
 代えさせていただきます。  
 申込先: 地域科学研究会・高等教育情報センター  
 東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106  
 Tel: 03 (3234) 1231 / Fax: 03 (3234) 4993  
 E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp)  
 URL: <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/>

### 研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 153 2009 年 月 日

コンパクト・カレッジの教学経営の展開

当日参加  メディア参加  
 (□に✓印を入れてください)

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

連絡部課・担当者 \_\_\_\_\_

参加者氏名

所属部課役職名

メールアドレス

(通信欄) 支払方法 (郵便振替・当日払い・銀行振込) 必要書類 [  請求書  見積書 ]

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
9:40 ～ 11:00	<p>□ 大学の収入規模別戦略 ～企業戦略の枠組みから見た示唆～ 早稲田大学 山田 英夫</p> <p>1. 売上高と利益率の関係は？ (1) 企業ではPIMSの原則が崩れてきた (2) 大学における収入と収支率の関係は ①調査対象大学 ②収入とは ③収支率とは</p> <p>2. 調査結果 (1) 全体としては規模型産業 (2) 収支率では規模型事業と分散型事業に</p> <p>3. 収入規模別戦略 (1) 規模型事業の戦略 (2) 分散型事業の戦略</p> <p>4. 中規模大学はどうすればよいか？ (1) 中規模大学はスタック・イン・ザ・ミドル (2) ニッチャーかチャレンジャーか (3) チャレンジャーの戦略 (4) ニッチャーの戦略 (質疑応答)</p>
11:10 ～ 12:40	<p>□ [常磐大学] 地方小規模大学の教学経営の展開 ～徹底的な地域密着の戦略と戦術による人材養成～ 常磐大学 高木 勇夫</p> <p>1. 最近5年間の動向と展開 (1) 入学生と卒業生の動向 (2) 常磐教育マニフェストの作成 (3) 報道による大学プレゼンスの向上</p> <p>2. 大学・短期大学の再編成 (1) 大学における学科の新設と再編 (2) 短期大学の3学科体制から2学科体制への再編</p> <p>3. 産官民との連携—学び合い、教え合い、助け合い、支え合う連携 (知の協創拠点〈グローバル・コモンズ〉) (1) 自主講座 (2) 連携講座 (3) 自主プロジェクト (4) 連携プロジェクト (5) 連携研修</p> <p>4. さらなるイノベーションに向けて (1) 総合人間科学学会(学内学会)の開設 (2) 全学教育システム改革会議の設置 (質疑応答)</p>
13:40 ～ 15:10	<p>□ [札幌国際大] 適正スリム化の教学経営と政策要求 ～中小規模大学・短大における定員減の戦略～ 札幌国際大学 和野内 崇弘</p> <p>1. 大学設置に伴う入学定員の推移 (1) 短期大学の入学数を活用した四大設置 (2) 短期大学の入学定員の四大振替とそれに伴う学科廃止</p> <p>2. 大学の学部増に伴う短期大学定員振替の問題点 (1) 大幅な短期大学の定員の規模縮小と大学学部増とのプラス、マイナス—教員の転用の限界と運営の問題 (2) 大学の学部、学科改編の推移 (3) 教学への影響—新しい学部・学科と廃止する学部・学科の教育</p> <p>3. 少子化と大学の規模縮小(定員減)の問題 (1) スリム化と財務の関連性—追い詰められたスリム化の危険 (2) 定員減による収入減をどう乗り切るか—経営の合理化が上手いできるか(教職員の転用、減員など運営上の問題)</p> <p>4. これからの中小規模大学・短大に対する政策的配慮—規制緩和による格差拡大への配慮 (1) 逆臨定の考え方の導入と設置基準の弾力的な運用 (2) 経常費補助的な研究費配分への配慮—多くの中小規模大学・短大で実践可能なテーマへの配慮 (3) 高等教育における私立大学、短期大学の存在—その存立自体に対する政策的配慮の拡大(私大73%、私立短大93%) (4) 大規模大学と中小規模大学・短大と同一の基準で良いか —水増し入学への対応など(大規模大学ほど志願倍率、定員充足率高い) (5) 国は国公立大学と私立大学の役割をどう考えているのか (質疑応答)</p>
15:20 ～ 16:50	<p>□ [九州ルーテル学院大] 地域密着型のコンパクト・カレッジの教学経営 ～人づくりの原点に立ち続ける(少数・教養・地域)～ 九州ルーテル学院大学 清重 尚弘</p> <p>1. 二度の危機と対応 (1) 女子短大の隆盛と退潮(第一の危機) (2) 四大・共学志向の流れとルーテルの対応 人文学部・人文学科 特色:少数教育 教養教育アメリカのルーテル系リベラルアーツ・カレッジ (3) 定員割れ(第二の危機)と県内の大学を取り巻く環境 (4) 再建計画 大学の魅力を伝え、競争力を付ける 学費値下げ、学科再編、リクルート強化</p> <p>2. さらなる改革 (1) 外から見やすく→人文学科を2専攻(こども+キャリア・イングリッシュ)に (2) 出口をしっかりと→資格取得課程をそろえる (3) 修士課程設置</p> <p>3. 弱さを強さに(resourceful) (1) 少数教育の徹底 教育の本質に立ち返る契機「一人一人(が)を大切に」 (2) “産学提携”のない“人文系”の「地域連携」の可能性 モノづくりはダメでも 1.人づくりなら:社会人講座 2.人助けなら:子育て支援 発達障害児、自閉症児のデイケア (3) 長期履修生制度:学生確保の苦肉の策を先端的制度に “誰でもいつでも学べる”大学へ</p> <p>4. 地域密着・貢献『熊本を豊かに 熊本で生きる』 (1) 学生の出身、就職:90%が熊本県 (2) 現代GP「熊本発!発達支援者養成プロジェクト」 (3) 人的プレゼンス 認知度向上へ 教員の出前授業 学生の町づくりボランティア参画</p> <p>5. 大学生き残りに大切なこと (1) スピード 小規模校が絶対有利 例えば、真っ先に手を上げて教員免許更新の講習成功 (2) 学内の最大参画 民主的運営 教員・職員の壁なし 学生も当事者</p> <p>6. 私立学校=私を立てる学校 ファンを創る 広げる 大切に (質疑応答)</p>